

靴の歴史散歩 ⑦〇

皮革産業資料館 常任委員 稲川 實

西村記念室の収蔵資料から、第一回内国勸業博覧会の『褒賞状』（明治10年・1877年）、そして『製靴図集』（東京靴工同盟会明治34年・1901年）と順次紹介してきたが、何といっても収蔵品の圧巻は、西村勝三の銀座伊勢勝売場（後の桜組）の『製靴注文帳 明治十年第一月ヨリ十二月迄』である。（写真参照）

注文帳については、かなり以前だが「靴の歴史散歩⑫」の〈伊勢勝銀座出張店〉の項ですでに紹介済みだが、今回新たに収蔵された経緯など、明確になったこともあるので、あえて再登場させることにした。

ハードカバーの部厚い本より古新聞の束の方が、より多くの生きた情報が得られると、古新聞礼賛の一人だが、今回もまたその幸運に恵まれ感謝している。

以下は、昭和39年3月21日付『靴商工新聞』に掲載された「製靴注文帳」に関する記事である。後の記録に全文を転記しておきたい。

足、この代金は二、〇一四円十銭と記され、内訳は次のとおり。（カッコ内は代金）

長靴八六足（五二四円五二銭五厘）

脚伴五足（一五円）

ゴム靴一四七足（六〇四円二五銭）

ゴム入り半靴一六九足（五四四円一〇銭）

編上ならびにトンビ靴八八足（二六八円一〇銭）

ウワ靴三二足（三六円三二銭五厘）

小児靴三八足（二一円八〇銭）

巡査用長、短靴一〇〇足（一六〇円）

明治十年といえば西郷隆盛が西南戦争をおこした年であるが、伊勢勝工場へも熊本から騎馬靴や巡査用靴が大量に発注されている。

また、この年は上野公園で第一内国勸業博覧会が開かれ、政府は全国から商品単位に文明開化の産物を出品させたので、産業界はめざましい発達をしたので有名であるが、当時の諸記録によると西村、弾、大塚が上級賞牌を授与されている。（この項続く）

〈西村家からの貴重な資料 明治十年当時 がわかる〉

「靴の記念日」の西村翁胸像除幕式式場で、西村家から靴連盟に対して別掲写真のような貴重な資料が提供された。これは伊勢勝製靴場の銀座売店で、明治十年一月から十二月まで受注した製靴注文帳で、内容を見ると年間受注総足数五九二

